

牧ノ池の散策（II）

加藤 誓（ちかい）



今にも雨が降りそうな9時過ぎ、牧野ヶ池緑地事務所前で区役所の女性2名と12、3名の自然散策会のスタッフの方のミーティングが、参加者が少ないのではと心配そうに始まった。それから、何組かの親子連れや、女性群のお仲間など徐々に30名程集まり関係者もほっとした様子。

私の入った一般組と親子組に分かれて出発。「この木はハリエンジュでニセアカシアと呼ばれる厄介な外来種ですが、日本のハチミツの多くが、この花を蜜源にしています。」「桜の葉を見て下さい。蜜腺があり、桜の木の害虫防止に役立つアリを集めるためだそうです。」公園の片隅の松の根元の洞に日本ハチミツの巣がある。天敵のスズメバチにやられないよう小さな穴の金網で保護されている。

巣の中は恐らく先程観た4月のソメイヨシノと5～6月のニセアカシアの花蜜や、5月咲いていたユリノキの蜜で一杯のことだろう！

先に進む。薄暗く、ぬかるむ道脇に鮮やかな大きな白いキノコが生えていた。スタッフの一人が抜くと根っこが卵みたい。「これはタマゴダケです。」もう一人のスタッフが「タマゴダケは傘が赤いはず？」家に帰って調べたらどちらも正解。さすが物知りスタッフ。7月の長雨の所為かあちこちキノコだらけ。そして、池の畔に来た。

蓮のつぼみ、スイレンの花、そして、ガガブタの花。池の縁にヌマトラノオ。昨年教えてもらったそれらの花とミドリガメの卵の殻などを知ったかぶりで、指差し、名を叫ぶ！スタッフの方が前日仕掛けていた網籠に小魚が入っていた。「う～ん。モツゴ？」調べたらやはり、合っていた。さすが！「この木は葉が左に二個並び次に右二個並ぶニコニコの木とも言うイソノキです。」「へえ！」

「ここは、近畿、東海地区のみで生育している、名古屋市での準絶滅危惧種に指定されているクロミノニシゴリの群生しているところです。先程観た木は日が当たる場所で実を付けていましたが、ここは、暗くて実を付けていません。」「へえ！」道路脇の木に秋に紫の実を付ける「ムラサキシキブ」と書かれた名札が付いていた。休憩所に来た。そこに真っ赤な花が咲いていた。スタッフの方に名前を教えて貰った。「ヒメオオギスイセンです。」紫式部と姫檜扇か！覚えたぞ！

雨が降ってきた。家へ帰る途中、勉強したハチミツが欲しくなりスーパーで購入。昼食後、心地良い疲れで一眠り。女房がテレビをつけた。目が覚める。コロナ感染者数、東京18,919人。第7波とか、これは大変だ。ハチ蜜は良いが、三密は また、ダメだ！





ハリセンジュ (ニセアカシア)



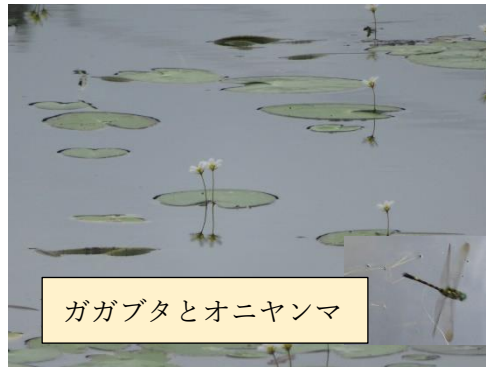
クロミノニシゴリ



イソノキ



スイレン



ガガブタとオニヤンマ



ハス



ヌマトラノオ



ヒメオオギスイセン



ノイバラ



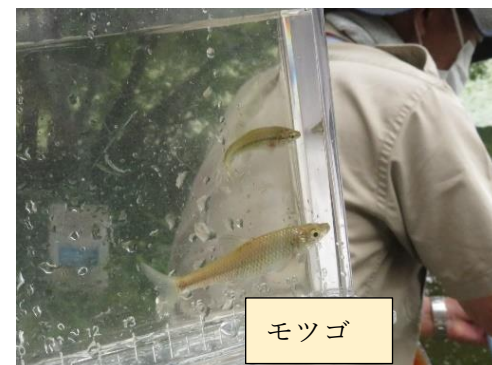
白いタマゴダケ



アブラゼミ



羽化前のセミ



モツゴ